

令和2年度用「中学社会 地理」2年 年間指導計画作成資料（案）

◇ 移行措置期間中の教科書の扱いについて ◇

● 現行版の教科書『中学社会 地理 地域にまなぶ』の「第1編 世界のさまざまな地域(p.11～p.120)」に、「日本の地域構成(第2編・第1章[p.125～136])」の学習内容を追加することで対応できます。

● 現行版の教科書『中学社会 地理 地域にまなぶ』の「世界のさまざまな地域の調査(第1編・第4章[p.112～p.120])」の内容を省略し、「世界の諸地域(第1編・第3章)」において、「読み解こう」などで資料の読み取りに関する学習や、地図を活用する学習、適宜「ふりかえる」を活用するなどしてグループ討議の学習などを充実させることにより、「世界のさまざまな地域の調査」の内容を合わせて丁寧に指導することで対応できます。

令和2年6月版

取り扱いに当たっての留意事項

- 「学校の授業以外の場において行うことが考えられる教材・学習活動」では、学習内容や時数について考えられる案を示しています。学校や地域の実態に応じてご参照ください。
- 表中の「学校の授業以外の場において行うことが考えられる教材・学習活動」とは、「学校の授業以外の場で学習したことを基に、授業で各活動が展開されること」を前提としています。学校以外の場のみで学習が完結するというものではありませんので、授業における配慮をお願いします。
- 単元ごとの配当時数、主な学習活動などは、今後変更になる可能性があります。予めご了承ください。
- 各単元の評価規準、及び評価基準については、弊社ウェブサイトの「年間指導計画・評価計画（案）」をご参照ください。

教育出版

地理的分野 指導計画表(第2学年)

※地理での時数65時間(予備6時間を含む)・うち学校の授業以外の場において行うことが考えられる教材・学習活動7時間
(第2学年の社会科全体の時数105時間・うち学校の授業以外の場において行うことが考えられる教材・学習活動21時間)

※第2学年の総配当時数105時間に対し、教科書では地理的分野・歴史的分野を合わせて「本時」を94時間(地理:59時間,歴史:35時間)で設定し、残りの11時間を予備として、特設ページや地理の「学習のまとめと表現」などを弾力的に取り扱っていただくように構成しています。
本資料では、地理的分野(第2学年)について、「第2章 世界からみた日本のすがた」などから7時間分を、学校の授業以外の場で行うことで、今年度のカリキュラムを52時間の授業時数で作成できるように提示しています。

第2編 日本のさまざまな地域 (配当65時間・うち学校の授業以外の場において行うことが考えられる教材・学習活動7時間)

第1章 日本の地域構成(配当5時間)

| 累計時間 | 主な学習内容 | 学習目標 | 学校の授業以外の場において行うことが考えられる教材・学習活動 |
|------|---|--|---|
| 48 | ①世界のなかの日本の位置 (p.126~127) ・地球上の日本の位置 ・本初子午線と時差 | ○世界における日本の位置を理解し、絶対的位置や相対的位置の方法によって表現できる。 ○時差のしくみを理解し、世界各地との時差の計算によって、日本の位置について表現できる。 | ◇移行措置期間中の扱いとして、「第1編 世界のさまざまな地域(p.11~p.120)」に、「日本の地域構成(第2編・第1章[p.125~136])」の学習内容を追加することで対応できる。 |
| 49 | ②日本の国土の広がり (p.128~129) ・島国日本 ・日本の領域の移り変わり | ○日本の領域は多くの島々(領土)と領空・領海からなり、海に囲まれた海洋国家であることを理解する。 ○領海の外側に排他的経済水域が設けられていること、日本の領域が時代とともに変化してきたことについて関心をもち、調べようとする態度を養う。 | |
| 50 | ③日本の領土をめぐる (p.130~131) ・北方領土をめぐる問題 ・竹島と尖閣諸島 | ○北方領土、竹島と尖閣諸島について、日本と周辺国との間に領土をめぐる対立が生じていることを理解する。 ○北方領土、竹島と尖閣諸島について、具体的な位置関係を把握するとともに、歴史的背景について関心をもち、調べようとする態度を養う。 | |
| 51 | ④47の都道府県 (p.132~133) ・都道府県と地域区分 ・都道府県庁所在地の成り立ち | ○47都道府県と都道府県庁所在地名について確認し、その成り立ちについて整理して理解する。 ○47都道府県の都道府県庁所在地名について、その成り立ちを含めて理解し、自然的・社会的条件を設定して共通性を考えたりして、表現できる。 | ○小学校の学習を振り返り、地図帳も参考にしながら、「読み解こう」に取り組み、そのあと、写真や資料とともに本文を読み進め、考えたことや感じたことをまとめる。 ○「ふりかえる」について、教科書以外に地図帳や資料などで調べながら取り組み、答をまとめる。 【1時間】 |
| 52 | ⑤さまざまな地域区分 (p.134~135) ・地域区分の移り変わり ・生活・文化からみる地域区分 ・地域の結びつきによる区分 | ○日本の行政区分の変化や、目的に応じてさまざまな地域区分ができることを理解する。 ○さまざまな地域区分図から、それぞれの区分の特色について読み取ることができる。 | |
| — | 〈地理にアプローチ〉 日本の略地図を描こう (p.136) | ○日本のおおまかな略地図を描くことができる。 ○これまで学習した内容を、日本の略地図を使ってまとめることができる。 | |

第2章 世界からみた日本のすがた(配当11時間)

| 累計時間 | 主な学習内容 | 学習目標 | 学校の授業以外の場において行うことが考えられる教材・学習活動 |
|------|---|--|--|
| 53 | <p>①変動する大地と安定した大地 (p.138~139)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動が活発な二つの造山帯 ・安定した大陸の平野 | <p>○世界の中で日本が不安定な地盤に位置することや、環太平洋造山帯に位置することを理解する。</p> <p>○世界の火山や地震源の分布図から、日本が火山・地震活動が活発な場所にあることや、その理由について考え、読み取ることができると。</p> | <p>○写真や資料とともに本文を読み進め、考えたことや感じたことをまとめる。</p> <p>○太文字の重要語句や初出の語句については、巻末の用語解説や資料集なども使って調べながら、説明文をまとめる。</p> <p>※生徒からの相談を受けるなど生徒の学習状況を適宜把握し、適切に指導する。</p> <p>※発展的な学習(p.139・地理の窓)については、さらに学習したいときに取り組む内容とする。</p> <p>【1時間】</p> |
| 54 | <p>②変化に富む日本列島の地形 (p.140~141)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな山地 ・土砂によってできた平野 ・短くて急な日本の河川 ・複雑で長い海岸線 | <p>○日本の山地や火山、平野や河川の分布とそれらの名称を理解する。</p> <p>○山地や平野の成因や扇状地と三角州の違い、日本の河川の特徴、海岸線にみられるさまざまな環境について理解する。</p> | |
| 55 | <p>③地形図を使って地形をみていこう (p.142~143)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地形図と等高線 ・地図記号と縮尺 | <p>○地形図に表現される方位、地図記号、等高線のしくみについて学習し、それぞれの読み取りの技能を身に付ける。</p> <p>○地形図上で読み取ることのできる地理的な情報を言語化し、文章に表現できる。</p> | |
| 56 | <p>④四季のある気候 (p.144~145)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界の気候帯と植生 ・日本の気候 ・梅雨のしくみ ・台風の接近 | <p>○世界には五つの気候帯が広がり、日本は温帯に属していること、日本は六つの気候に区分できることについて理解する。</p> <p>○日本の気候区分図から、各地域の気候の特色について考え、表現できる。</p> | |
| 57 | <p>⑤自然がもたらす災害と向き合う (p.146~147)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活断層と地震・津波 ・火山の噴火と火砕流 ・地形と水害 ・日本の気象災害 | <p>○日本で発生するさまざまな自然災害と、そのしくみなどの特徴を理解する。</p> <p>○さまざまな自然災害に対して、対策が行われていることについて考え、文章に表現できる。</p> | <p>Op.140~141の学習と前時で学習した「日本の気候の特色」を念頭に置きながら、日本の自然災害について、写真や資料とともに本文を読み進め、考えたことや感じたことをまとめる。</p> <p>○「ふりかえる」について、教科書以外に地図帳や資料集なども使って調べながら取り組み、答をまとめる。</p> <p>※生徒からの相談を受けるなど生徒の学習状況を適宜把握し、適切に指導する。</p> <p>【1時間】</p> |

| 累計時間 | 主な学習内容 | 学習目標 | 学校の授業以外の場において行うことが考えられる教材・学習活動 |
|------|---|--|--|
| 58 | <p>⑥災害から身を守るために (p.148～149)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハザードマップの活用 ・災害時の対応 ・災害への支援と復興 | <p>○さまざまな災害から身を守るための、国や各地方公共団体、地域社会のしくみを理解する。</p> <p>○ハザードマップと東日本大震災を例として、さまざまな災害への対応、支援、復興への対策について考え、表現できる。</p> | |
| 59 | <p>⑦世界の人口分布と変化 (p.150～151)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・増加する世界の人口 ・かたよる人口分布 ・地域で異なる人口の変化 ・人口ピラミッドからわかること | <p>○世界の人口分布と自然環境との関係、先進国と発展途上国による人口変化の違いなどについて理解する。</p> <p>○人口ピラミッドから、その国や地域の人口構成の特色を読み取ったり、説明したりすることができる。</p> | |
| 60 | <p>⑧日本の人口分布と課題 (p.152～153)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の人口分布 ・過密と過疎の問題 ・日本社会で進む少子化と高齢化 | <p>○日本の人口分布について、三大都市圏などの過密地域と、過疎地域がみられることを理解する。</p> <p>○日本の少子化・高齢化によって、今後予想される課題について考え、表現できる。</p> | |
| 61 | <p>⑨資源・エネルギーのかたよる分布 (p.154～155)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界の資源・エネルギーの分布 ・資源・エネルギーの消費と課題 ・電力と発電方式 | <p>○世界の資源の分布や、日本は外国からの資源輸入に依存していることを理解する。</p> <p>○発電方法の種類と再生可能なエネルギーについて考え、表現できる。</p> | |
| 62 | <p>⑩産業の構成とその変化 (p.156～157)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然にはたらきかける産業 ・資源を利用してものをつくる産業 ・販売やサービスを提供する産業 | <p>○日本の産業別人口割合が大きく変化してきたことについて理解する。</p> <p>○日本の各産業の特色について、その理由などについて考え、表現できる。</p> | <p>※日本地誌で「産業」を考察のテーマに扱う、中部地方の5時間め(=83時間め)の後に移動し、「学校の授業以外の場において行うことが考えられる教材・学習活動」に位置付ける。</p> <p>○小学校の学習を振り返り、地図帳も参考にしながら、写真や資料とともに本文を読み進め、考えたことや感じたことをまとめる。</p> <p>○「ふりかえる」について、教科書以外に地図帳や資料集などを使って調べながら取り組み、答をまとめる。</p> <p>【1時間】</p> |
| 63 | <p>⑪結びつきを強める世界と日本 (p.158～159)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界が小さくなる ・貿易による結びつき ・国内の交通の発達 | <p>○世界の国々は交通や通信、貿易によって強く結びついてきており、人の移動も増えてきたことを理解する。</p> <p>○主題図から、国内の時間距離が短縮されてきたことや、交通網が発達してきたことを読み取ることができる。</p> | |

第3章 日本の諸地域(配当35時間)

1. 九州地方～環境問題と環境保全を中心に考えよう(配当5時間)

| 累計時間 | 主な学習内容 | 学習目標 | 学校の授業以外の場において行うことが考えられる教材・学習活動 |
|------|---|---|--------------------------------|
| 64 | ①多様な自然環境に恵まれた地域 (p.162～163) ・九州地方の位置と外国との関係 ・特色ある地形 ・温暖な気候と台風の通り道 | ○九州地方の位置と自然環境を大観し、構成する県の位置と名称を理解する。 ○九州地方の地勢図から、主な自然地名や各県、主な都市の位置と名称を読み取ることができる。 | |
| 65 | ②さんご礁の海を守る (p.164～165) ・さんご礁が広がる沖縄の海 ・沖縄の歩みと観光産業 ・沖縄県の観光と自然環境 | ○南西諸島の自然環境と歴史の特色、観光開発による環境への影響について理解する。 ○さんご礁の白化現象と保護活動の例から、観光開発と環境保全の関係について考え、表現できる。 | |
| 66 | ③火山とともに暮らす (p.166～167) ・火山が集中する九州地方 ・シラス台地と人々の暮らし ・火山灰を活用する | ○九州地方に火山が集中していることや、火山が人々の暮らしに及ぼす影響について理解する。 ○桜島の火山活動を例に、地域の人々の対応や火山の利用について考え、表現できる。 | |
| 67 | ④環境を守る循環型の農業 (p.168～169) ・阿蘇の草原と野焼き ・畜産業が盛んな九州の南部 ・循環型農業を旨として | ○九州地方では自然環境を生かした畜産業が盛んであり、循環型農業などが行われていることを理解する。 ○阿蘇山の野焼きを例に、人間が積極的に関わる環境保全のあり方について考え、表現できる。 | |
| 68 | ⑤煤煙の街からエコタウンへ (p.170～171) ・北九州工業地域の発展と公害 ・変わる九州地方の工業 | ○九州地方の工業生産の特色と公害の発生、エコタウン事業について理解する。 ○北九州市を例に、公害とその克服の取り組みについて考え、表現できる。 | |
| — | ◆現代日本の課題を考えよう 公害を乗り越えて (p.172～173) ・水俣病と水俣市 ・公害が発生した時代を振り返って ・「もやい直し」のまちづくり ・環境モデル都市に選ばれた水俣市 ・環境改善に向けて | ○水俣市で発生した公害病と、その教訓を生かした環境モデル都市としての活動について理解する。 ○日本各地の公害について関心をもち、現在の対策や状況などについて調べる態度を養う。 | |

2. 中国・四国地方～人口や都市・村落を中心に考えよう（配当5時間）

| 累計時間 | 主な学習内容 | 学習目標 | 学校の授業以外の場において行うことが考えられる教材・学習活動 |
|------|---|---|--------------------------------|
| 69 | ①人口分布のかたよる地域 (p.174～175) ・瀬戸内に集中する都市と人口 ・山と海に挟まれた自然環境 | ○中国・四国地方の位置と自然環境を大観し、構成する県の位置と名称を理解する。 ○中国・四国地方の地勢図から、主な自然地名や各県、主な都市の位置と名称を読み取ることができる。 | |
| 70 | ②中国・四国地方の中心 広島 (p.176～177) ・城下町から発達した街 ・軍都と原爆、そして復興 ・進む都市化と課題 | ○中国・四国地方において地方中枢都市となっている、広島市の都市化によって起こる課題について理解する。 ○地形図の新旧比較から、広島市の都市の発達について歴史的な変化を読み取ることができる。 | |
| 71 | ③人口減少と地域の悩み (p.178～179) ・人口減少による地域の変化 ・過疎問題とは ・平成の大合併と地域社会 | ○中国山地の農村などで人口減少が続いており、過疎化にともなう課題がみられることを理解する。 ○島根県大田市を例に、人口構成の特色と地域の活性化について考え、表現できる。 | |
| 72 | ④地域おこしの知恵 (p.180～181) ・馬路村のゆず栽培 ・上勝町の「つまもの」ビジネス ・地産地消の地域おこし | ○過疎地域における、地域おこしや人々の努力の事例について理解する。 ○高知県馬路村や徳島県上勝町を例に、地域おこしについて関心をもち、各地の人々の努力について調べようとする態度を養う。 | |
| 73 | ⑤交通網の発達と人口の変化 (p.182～183) ・交通網の整備と地域の変化 ・本州四国連絡橋と生活の変化 ・交通手段の多様化 | ○中国・四国地方の交通網の整備によって、地域の人々の生活に与えた影響について理解する。 ○中国・四国地方の交通網の変化を示した主題図から、人々の行動圏が拡大したことや航路の廃止などを読み取ることができる。 | |
| 一 | ◆現代日本の課題を考えよう 荒廃の進む日本の山村 (p.184～185) ・過疎の村に暮らす ・広がる過疎地域 ・山村が果たしてきた役割 ・過疎地の活性化 | ○山村の過疎化にともなって、農地や地域社会の維持が困難になりつつある現状を理解する。 ○過疎地域の耕作放棄地の拡大に関心をもち、その対策などについて調べようとする態度を養う。 | |

3. 近畿地方～歴史的背景を中心に考えよう（配当5時間）

| 累計時間 | 主な学習内容 | 学習目標 | 学校の授業以外の場において行うことが考えられる教材・学習活動 |
|------|---|--|--------------------------------|
| 74 | <p>①歴史に育まれた地域 (p.188～189)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都としての長い歴史 ・歴史を育んだ条件 ・多様な自然環境 | <ul style="list-style-type: none"> ○近畿地方の位置と自然環境を大観し、構成する府県の位置と名称を理解する。 ○近畿地方の地勢図から、主な自然地名や各府県、主な都市の位置と名称を読み取ることができる。 | |
| 75 | <p>②京都の街並みと景観保全 (p.190～191)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・条坊制の街並み ・歴史的街並みの変化 ・歴史的景観を守る | <ul style="list-style-type: none"> ○伝統的な街並みの保存と都市の開発という二つの問題における対立と調和について理解する。 ○景観の保全と開発において、さまざまな立場の意見について考え、表現できる。 | |
| 76 | <p>③阪神工業地帯の発展と課題 (p.192～193)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・かつての日本最大の工業地帯 ・多い中小工場 ・大阪湾岸の再開発 | <ul style="list-style-type: none"> ○阪神工業地帯における工業の特色や、その歴史的な変化を理解する。 ○東大阪市を例に、地域のものづくりの特色について考え、表現できる。 | |
| 77 | <p>④商業のまち・大阪の変化 (p.194～195)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「天下の台所」 ・大阪経済の占める地位 ・大阪経済の復権を旨として | <ul style="list-style-type: none"> ○大阪の商業について、その歴史的な変化と現代における課題、その要因を理解する。 ○京阪神大都市圏の交通網の整備と、日本の経済における大阪の位置づけについて考え、表現できる。 | |
| 78 | <p>⑤琵琶湖の水の利用と環境 (p.196～197)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本一の湖 ・琵琶湖の水を利用する ・琵琶湖を守れ! | <ul style="list-style-type: none"> ○琵琶湖の自然環境や近畿地方の水源としての特徴、環境保全の歴史を理解する。 ○琵琶湖の環境保全と周辺地域の開発の課題について考え、表現できる。 | |
| — | <p>◆現代日本の課題を考えよう 東アジアと結びつく街 (p.198～199)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・華僑と華人 ・日本の中華街の歴史を知る ・生野コリアタウンを知る | <ul style="list-style-type: none"> ○神戸市の中華街と大阪市のコリアタウンの形成について、その歴史的背景を理解する。 ○国内に古くから暮らす外国人（オールドカマー）に関心をもち、日本と近隣諸国の歴史や課題について調べようとする態度を養う。 | |

4. 中部地方～産業を中心に考えよう（配当5時間）

| 累計時間 | 主な学習内容 | 学習目標 | 学校の授業以外の場において行うことが考えられる教材・学習活動 |
|------|---|--|--------------------------------|
| 79 | <p>①産業が活発な地域 (p.200～201)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中部地方の産業 ・独自の発展 ・多様な自然環境 | <p>○中部地方の位置と自然環境を大観し、構成する県の位置と名称を理解する。</p> <p>○中部地方の地勢図から、主な自然地名や各県、主な都市の位置と名称を読み取ることができる。</p> | |
| 80 | <p>②日本経済をリードする工業地域 (p.202～203)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東海地方の中心、名古屋市 ・中京工業地帯 ・自動車工業が発展の原動力 | <p>○中京工業地帯と東海工業地域には、自動車などの機械工業が発達しており、地域経済を支えていることを理解する。</p> <p>○豊田市の自動車産業を例に、合理化された生産体制などについて考え、表現できる。</p> | |
| 81 | <p>③先進的な第一次産業 (p.204～205)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集約的な農業生産 ・荒れ地から茶の栽培へ ・遠洋漁業の基地 焼津 | <p>○東海地方を事例として、付加価値を高めた先進的な第一次産業の生産について理解する。</p> <p>○静岡県の茶の生産などを例に、集約化された農業生産の工夫などについて考え、表現できる。</p> | |
| 82 | <p>④自然環境を生かした産業 (p.206～207)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・扇状地と高原を利用した農業 ・変化を続ける内陸の工業地域 ・観光をめぐる新たな動き | <p>○中央高地では、自然的条件を生かした農業や観光業が盛んであることを理解する。</p> <p>○長野県の高原野菜の生産を例に、他地域との時期をずらした出荷などについてその利点を考え、表現できる。</p> | |
| 83 | <p>⑤雪に育まれた伝統産業 (p.208～209)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・城下町 金沢市 ・北陸地方の地場産業 ・北陸地方の近代工業 ・米作りの条件を整える | <p>○北陸地方における多雪と伝統産業の発達、多雪と水田単作との関係について理解する。</p> <p>○北陸地方の伝統的工艺品や、日本各地の地場産業に関心をもち、調べようとする態度を養う。</p> | |
| 一 | <p>◆現代日本の課題を考えよう 多文化共生を旨として (p.210～211)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本で暮らす外国人の人口 ・ブラジル人入国者数と出国者数の変化 ・浜松市に暮らす日系ブラジル人 ・共生のための取り組み | <p>○浜松市などの工業地域で働く日系ブラジル人を例に、多文化共生の社会の重要性を理解する。</p> <p>○国内に比較的新しく暮らす外国人（ニューカマー）に関心をもち、労働や生活の課題について調べようとする態度を養う。</p> | |

5. 関東地方～他地域との結びつきを中心に考えよう（配当5時間）

| 累計時間 | 主な学習内容 | 学習目標 | 学校の授業以外の場において行うことが考えられる教材・学習活動 |
|------|--|--|--------------------------------|
| 84 | ①日本の中心的な地域 (p.212～213) ・首都東京の発展 ・日本最大の平野 ・気候の特色と地域差 | ○関東地方の位置と自然環境を大観し、構成する都県の位置と名称を理解する。 ○関東地方の地勢図から、主な自然地名や各都県、主な都市の位置と名称を読み取ることができる。 | |
| 85 | ②日本の首都 東京 (p.214～215) ・首都としての機能 ・副都心の発達 ・都心の人口の変化 | ○首都のもつ中枢管理機能によって、東京は日本の政治・経済・文化の中心地となっていることを理解する。 ○鉄道のターミナルに副都心が発達し、土地の効率的な利用のために高層ビルが建ち並ぶことについて考え、表現できる。 | |
| 86 | ③拡大する都市圏 (p.216～217) ・郊外に広がる市街地 ・市街地拡大にともなう問題 ・都心の機能の移転 | ○東京を中心とした大都市圏の拡大によって、過密にともなう課題が発生し、都心の機能が移転したことを理解する。 ○東京への通勤・通学圏の拡大の理由について、鉄道網の発達と関連づけて考え、表現できる。 | |
| 87 | ④東京湾岸から内陸地域へ (p.218～219) ・南関東の工業地域 ・北関東への工場進出 ・他の地域との結びつきの変化 | ○関東地方は日本で最も工業の発達した地方であり、東京湾岸地域から内陸地域へと拡大してきたことを理解する。 ○工業地域の拡大の理由を、用地や労働力、交通網の発達と関連づけて考え、表現できる。 | |
| 88 | ⑤世界都市 TOKYO (p.220～221) ・世界のなかの東京 ・世界との交通の拠点 ・増加する外国人 | ○成田国際空港や横浜港は世界の多くの国々と結びついており、関東地方は外国との窓口としての機能をもつことを理解する。 ○世界との結びつきが強まることで、地域の国際化が進み、外国人労働者が増加したことなどについて考え、表現できる。 | |
| — | ◆現代日本の課題を考えよう 交流による地域づくり (p.222～223) ・広がっていく地域交流の輪 ・互いに成長しあう交流 ・地域交流の新しいかたち | ○落語をきっかけにした地域の祭りが縁で、地域づくりがなされてきたことを理解する。 ○都市と農村の交流について関心をもち、地域活性化と課題について調べようとする態度を養う。 | |

6. 東北地方～生活・文化を中心に考えよう（配当5時間）

| 累計時間 | 主な学習内容 | 学習目標 | 学校の授業以外の場において行うことが考えられる教材・学習活動 |
|------|--|---|--------------------------------|
| 89 | ①豊かな文化を育んだ地域 (p.226～227) ・「秋田音頭」と秋田の風物 ・東北の歩みと仙台市 ・多様な自然環境 | ○東北地方の位置と自然環境を大観し、構成する県の位置と名称を理解する。 ○東北地方の地勢図から、主な自然地名や各県、主な都市の位置と名称を読み取ることができる。 | |
| 90 | ②現代に生きる地域文化 (p.228～229) ・東北地方の祭り ・豊作を祈る ・伝統と結びつく暮らしや産業 | ○東北地方の祭りや伝統文化、住居形態の背景や、伝統芸能を観光資源として生かしていることについて理解する。 ○東北の三大祭りなどから、かつての人々の暮らしの様子に関心をもち、地域文化について調べようとする態度を養う。 | |
| 91 | ③東北地方の食文化と水産業 (p.230～231) ・東北地方の食文化 ・三陸海岸の自然 ・水産業の発展 | ○東北地方における人々の暮らしを通じて、自然環境と文化や産業との関わりについて理解する。 ○東北地方太平洋岸を例に、地域の水産業の発達と、リアス海岸などの自然環境について考え、表現できる。 | |
| 92 | ④冷害を乗り越える農家 (p.232～233) ・冷害を乗り越えるために ・農家の経営安定の工夫 | ○東北地方の農業について、冷害が発生しやすい一方で、稲の品種改良などの対策が工夫されてきたことを理解する。 ○農業経営を安定させるため、稲作と果樹栽培や畜産などとの複合経営が行われてきたことについて考え、表現できる。 | |
| 93 | ⑤農村の暮らしの変化 (p.234～235) ・大きく変わる農村の風景 ・農村の工業化 ・国際化と地域の変化 | ○農村地域の景観の変化について、都市化、工業化などと関連づけて理解する。 ○準主業農家・副業的農家の増加について、農業の機械化や他業種への就業機会の増加などと関連づけて考え、表現できる。 | |
| — | ◆現代日本の課題を考えよう 震災を乗り越えて (p.236～237) ・漁の安全と大漁への願いを込めて ・東日本大震災の発生と被害 ・例大祭の復活 ・これからも祭りは引き継がれていく ・文化財の救済事業 | ○岩手県山田町における祭りの復活を例に、地域の人々の思いや伝統文化の継承について理解する。 ○東日本大震災で被害を受けた地域について関心をもち、各地の伝統芸能・文化の継承について調べようとする態度を養う。 | |

7. 北海道地方～自然環境を中心に考えよう（配当5時間）

| 累計時間 | 主な学習内容 | 学習目標 | 学校の授業以外の場において行うことが考えられる教材・学習活動 |
|------|---|---|--------------------------------|
| 94 | ①自然改変の歴史をもつ地域 (p.238～239) ・北海道の森林の変化 ・地形のあらまし ・開拓の歴史と自然環境の改変 | ○北海道地方の位置と自然環境を大観し、主な都市の位置と名称を理解する。 ○北海道地方の地勢図から、主な自然地名や主な都市の位置と名称を読み取ることができる。 | |
| 95 | ②厳しく長い冬の暮らし (p.240～241) ・北海道の気候と暮らし ・オホーツク海の流水と人々 ・すずしい夏と太平洋沿岸の海霧 ・再生可能なエネルギーの先進地 | ○冷帯（亜寒帯）に属する北海道の気候と、それに対応した人々の暮らしの特色について理解する。 ○再生可能なエネルギーの利用について関心を持ち、身近な地域での事例について調べようとする態度を養う。 | |
| 96 | ③日本の食料基地として (p.242～243) ・稲作の拡大と大規模化 ・十勝平野の稲作 ・根釧台地の酪農 ・開発により失われた自然 | ○北海道の大規模な農業経営と、日本の食料基地としての役割について理解する。 ○十勝平野の畑作や根釧台地の酪農について、自然的条件や社会的条件と関連づけて考え、表現できる。 | |
| 97 | ④「とる漁業」から「育てる漁業」へ (p.244～245) ・さけの人工ふ化増殖事業 ・北洋漁業と北海道の位置 ・「育てる漁業」への転換 ・自然改変の課題 | ○北洋漁業における漁獲制限や、栽培漁業や養殖の拡大の傾向について理解する。 ○水産資源の保護と北洋漁業の課題について関心を持ち、国際関係と関連させて調べようとする態度を養う。 | |
| 98 | ⑤豊かな自然を生かした観光 (p.246～247) ・冬季のイベントによる観光 ・火山と温泉 ・湿地を保全するエコツアー ・観光による地域の活性化 | ○北海道の豊かな自然を生かした観光産業と地域の活性化の関連について理解する。 ○身近な地域での自然や伝統的な文化を楽しむエコツアーのあり方について考え、表現できる。 | |
| — | ◆現代日本の課題を考えよう アイヌの人たちの文化にまなぶ (p.248～249) ・アイヌ・モシリの暮らし ・アイヌ民族と近代化の歩み ・伝統文化の継承 ・評価される自然との共生 | ○アイヌ民族の歴史や文化を知り、伝統文化を継承する重要性を理解する。 ○アイヌ民族の文化に関心を持ち、日本国内での多様な地域文化の共存について調べようとする態度を養う。 | |

第4章 身近な地域の調査(配当8時間)

| 累計時間 | 主な学習内容 | 学習目標 | 学校の授業以外の場において行うことが考えられる教材・学習活動 |
|------------|--|---|---|
| 99 | ①地域をながめて (p.252～253) ・身近な地域を見直そう ・高い場所から地域をながめよう ・風景を観察しながら歩こう | ○身近な地域を調査することを通じて、野外調査に関連する技術を身に付ける。 ○身近な地域に対して関心を高め、注意しながら観察しようとする態度を養う。 | |
| 100 | ②地形図の見方を知ろう (p.254～255) ・地形図と縮尺 ・縮尺による表現の違い | ○地形図の縮尺とそれに応じた表現の違いについて理解し、読み取りなどの技能を身に付ける。 ○調べる対象に応じて適切な縮尺の地形図を選択し、読み取ることができる。 | ○55時間めと関連づけ、地形図や写真とともに本文を読み進め、「読み解こう」の作業を行う。 ※生徒からの相談を受けるなど生徒の学習状況を適宜把握し、適切に指導する。 【1時間】 |
| 101 | ③調査テーマを決めて計画を立てよう (p.256～257) ・ルートマップに情報を集めよう ・調査テーマを決めよう ・予定を立てよう | ○KJ法によって具体的な調査テーマを抽出し、さまざまな調査方法から適切なものを選択できる。 ○観察によって得られた地域の情報や疑問などをルートマップの上で共有し、テーマ別に班を編成して具体的な調査の計画を立てる。 | |
| 102 103 | ④地域の工業を調べよう (p.258～259) ⑤地域の商店街を調べよう (p.260～261) ・文献・統計資料を利用しよう ・聞き取り調査をしよう ・新旧の地図を比べよう ・商店街を元気にするために | ○文献資料から地域の変化を年表やモデル図に加工したり、統計資料をグラフ化する。聞き取り調査を実施し、得られた情報を整理することができる。 ○地形図や同一地点の景観写真の新旧比較を行い、地域の変化を読み取り、文章に表現する。地域で活動している各種団体への聞き取りを行う。 | ○写真や資料とともに本文を読み進め、考えたことや感じたことをまとめる。 ○調査の進め方に従って資料をわかりやすくグラフ化したり、主題図を作成したりしてまとめ、発表会の資料やレポート作成を進める。 【1時間】 |
| 104 | ⑥発表会を開こう (p.262) ・発表会の準備と進め方 | ○調査した結果をレポートやイラストマップ、新聞形式、パソコンを使って発表形式にまとめるなどの表現ができる。 ○各班の調査結果をクラスで共有するための発表会の準備を進める。 | |
| 105 | ⑦地域に向けて発信しよう (p.263) ・地域の人々を招いた発表会 | ○地域の課題とその解決のための方策などを提案する。 ○地域調査に協力いただいた方々を教室に招くなどして、調査結果を報告する。 | ○地域の調査を通じて気づいた、地域の課題やその解決策について、地域の人々に提案する内容を自分なりに考え、学習を深める。 ○「まちづくりのアイデア」を参考にし、よりよい提案の仕方や、どうしたら相手に伝わるかなどを考える。 【1時間】 |
| 106 | ⑧レポートにまとめよう (p.264～265) ・地理学習のまとめとして | ○調査結果を各自で文章やグラフ、主題図などで表現し、レポートとしてまとめる。 ○調査活動を振り返り、調査における視点と方法をまとめ、技能として身に付ける。 | |